第１回研究発表会

「幼稚園の園庭飼育から身近な飼育へ」

加藤智子　岡田麻美子

「幼稚園にうさぎがいるから見に行きましょう」４月の入園当初泣いている子にお母さんが話かけながら登園してくる風景が見られます。幼稚園は子どもにとって初めての集団生活です。朝お母さんと離れられない子どもにとって、うさぎや、小鳥を見ながら幼稚園での時間を過すのは、気持ちのよりどころになるようです。

今まで幼稚園で「うさぎを飼っているのですか？」と聞かれると、「子どもはうさぎがすきですからね。」と何気なく答えていました。　なんとなく経験で子どもたちにとって小動物とのふれあいは大切だと感じていたのですが、具体的に子どもたちが、動物にどのようにかかわれば、より子どもたちの心に響く保育ができるのかという事は、深く考えた事はなかったように思います。

うさぎを飼っている幼稚園は多いと思います。三ツ沢幼稚園でも私が勤務する前からうさぎを飼っていました。うさぎはなんとなく外で飼うものだと思っていたのですが今回、幼稚園のうさぎの飼育場所を園庭からお部屋に移してみてはどうか？という提案をいただきました。

その件の職員会議では、うさぎが１日中子どものそばにいてお弁当の時などの衛生面はどうなのだろうか？とか、アトピー性皮膚炎などアレルギーを持つ子どもにうさぎの毛はどうなのだろうか？など、職員からも心配する声があがりました。

その件を中川先生にご相談したところ、最近の子どもは除菌しすぎになることの方が問題で、手洗いなどの指導をきちんとすればお部屋に一緒にいても問題はないと回答をいただきました。

そして今回、三ツ沢幼稚園の初めての試みがスタートしました。

うさぎのアトレはまだ、幼稚園の子どもの声に慣れていないだろうと思い、しばらく職員室入口の横に置き、子どもたちには紹介しましたが、あまり子どもの大声が聞こえない所に置くことにしました。ところが、もらってきたアトレのおなかには赤ちゃんがいたのです。そこで、一時職員室に飼育場所を動かしました。赤ちゃんうさぎは２匹大きくなりました。

獣医さんと子どもたちにうさぎの赤ちゃんを見せる時期の相談をして、獣医さんの指導を受けながら、年長全員で子どもたちとうさぎの出会いの日を迎えました。

赤ちゃんうさぎを見られるということで、子どもたちの興味をすぐにひきました。

子どもたちはうさぎを抱っこすると、とても穏やかな顔になり、それぞれに感じたことなどを（うさぎが驚かないように小さな声で）話していました。年長がシャオランとココアと名前を付けました。

中川先生が、うさぎの心臓の音を聞かせてくれて、幼稚園の子どもの心臓の音をハートのマークが光る機械を使って、子どもに具体的に説明して下さって、子どもたちはいつになく真剣な表情で見ていました。

今まで庭にうさぎがいるのは知っていても、だっこしたりするのはうさぎが好きな何人かで、うさぎは見るものと思っていたようです。

以前、うさぎを庭に放してみんなで可愛がるという試みもしたのですが、幼稚園の子どもたちには、遠慮がないので、うさぎを一輪車に乗せて走ったり、目を離したすきに、すべり台からうさぎが1人ですべって来たり。ブランコにのせてあげよう！と相談していたり。

子どもはうさぎを楽しませようと思ってのことなのですが、うさぎにはとっても迷惑な事をする事があるので、なんとなく、うさぎいじめになってしまうので、うさぎをいつでもだっこしてもいいよ、というようには、話していなかったのです。

そして見るだけのうさぎから、今度は身近に世話をするという体験になったのです。

その後うさぎの世話は年長さんの仕事になりました。

うさぎのうんちのかたずけも子どもがやることになりました。うんちとおしっこの臭いに我慢できずにオエっと気持ち悪くなってしまい、鼻をつまんで掃除した子もいましたが、1ヵ月もたつと「1日でこんなにおしっこしちゃうんだ！」と発見もあったり、「くさくなっちゃうから、早く取り替えないとかわいそうだよ。」日陰に出したうさぎが昼にはひなたになっていたときも、「暑いんじゃない？」と心配したり。

「出来ない、どーしても我慢できない」と言ったはじめの発言から少し変わってきているな、と感じました。臭くていや！という自分の気持ちではなくて、うさぎの気持ちになって考えてあげることができるようになったな、と思いました。

いやだったうさぎ当番だったはずなのに、「うさぎさんのお世話は？」と子どもから聞きに来るようにもなりました。

わざわざ、うさぎ見にいこう！と思わなくても、いつもの生活の中にうさぎがいる、という環境はクレヨンを手に持つと、なんとなく自由画帳に、うさぎの絵を描いたりうさぎの絵が嬉しくて、ずっと大事に持っていて、うさぎにそーっと見せたり、登園して着替えもそっちのけで、まずうさぎをなでたり、えさをあげたり。昼食の後、歯磨きして自分の席に戻りながら、コップ持ったまま、うさぎに話し掛けたり。

屋外飼育の時とは触れ合う時間が増えているのははっきり分かりました。

お散歩に行って「うさぎにおみやげ」と柔らかい葉っぱを選んで採ってうさぎにあげると、すぐに食べたので、「こんなの、初めてみたー」と食べる様子をじーっとみたりして、うさぎがいつもそばにいることで、うさぎがクラスの一員になり子どもたちの心に、小さな変化が出来たように思います。うさぎと子どもと今までの関わりと全然違うと感じました。

幼児期に他者の気持ちになって考えるというのは、難しいことであるけど、是非、身に付けてもらいたい、という先生の思いがありますが、このような活動で子どもたちに、割合分かりやすく身に付くな、と思いました。

（横浜市立三ツ沢幼稚園教諭
横浜市神奈川区三ツ沢南町18－7）